

第7回 阿賀野川自然再生モニタリング検討会

日時：平成30年11月27日 13:30～16:00

場所：阿賀野川きょうがせ防災ステーション

議事次第

1 開 会

2 現地見学

3 議 事

- ・ 整備後の状況について

【資料1】

4 閉 会

■配布資料

議事次第

出席者名簿

委員名簿

規約

資料1 現地見学会資料

第7回 阿賀野川自然再生モニタリング検討会 出席者名簿

(敬称略)

所 属	氏 名	出 席
委員		
新潟大学名誉教授	かみたに ともひこ 紙谷 智彦	(ご欠席)
NPO 法人 五泉トゲソの会 理事長	なかむら よしのり 中村 吉則	出席
新潟県立十日町高等学校 教諭	ば ば よしひろ 馬場 吉弘	(ご欠席)
阿賀野川漁業協同組合 副組合長	ふじた まさあき 藤田 正明	出席
新潟県野鳥愛護会 顧問	ほんま りゅうへい 本間 隆平	出席
新潟大学災害・復興科学研究所 准教授	やすだ ひろやす 安田 浩保	出席
阿賀野川河川事務所長	なかや まさかつ 中谷 正勝	出席
オブザーバー		
新潟市 環境政策課		出席
阿賀野市 建設課		出席
五泉市 都市整備課		出席

「阿賀野川自然再生モニタリング検討会」

委員名簿

(委員)

かみたに 紙谷	ともひこ 智彦	新潟大学名誉教授
なかむら 中村	よしのり 吉則	NPO 法人 五泉トゲソの会 理事長
ばば 馬場	よしひろ 吉弘	新潟県立十日町高等学校 教諭
ふじた 藤田	まさあき 正明	阿賀野川漁業協同組合 副組合長
ほんま 本間	りゅうへい 隆平	新潟県野鳥愛護会 顧問
やすだ 安田	ひろやす 浩保	新潟大学災害・復興科学研究所 准教授
なかや 中谷	まさかつ 正勝	阿賀野川河川事務所長

(敬称略)

(オブザーバー)

新潟市 環境政策課

阿賀野市 建設課

五泉市 都市整備課

阿賀野川自然再生モニタリング検討会 規約

(名 称)

第1条 本会の名称は「阿賀野川自然再生モニタリング検討会」(以下「検討会」という。)とする。

(目 的)

第2条 本検討会の目的は、阿賀野川の自然環境の保全・再生に向けて、市民や諸団体、学識者、行政が相互に有する英知を提供しあい、その具体的方策や効果の評価について検討を行うことを目的とする。

(組 織)

第3条 本検討会は別表に掲げる委員をもって構成する。

- 2 検討会には会長を置かず、全ての構成員が対等な立場で意見を交換するものとする。
- 3 検討を進める上で必要があると認められる場合は、検討会に諮り別表に掲げる者以外の参加を認める。

(検討会の成立)

第4条 検討会は委員の過半数の出席をもって成立する。

- 2 委員の代理出席は原則として認めない。

(情報公開)

第5条 会議及び会議資料は公開を原則とし、その決定は検討会が行う。ただし、貴重種の情報、個人情報保護法に抵触する資料に係る資料は、委員に限り配布する。

(事務局)

第6条 検討会の事務局は、国土交通省 阿賀野川河川事務所 調査課に置く。

(雑則)

第7条 本規約に定めるもののほか、検討会の運営に関する必要な事項については検討会で定める。

附 則

本規約は、平成26年12月1日より施行する。

現地見学会 資料

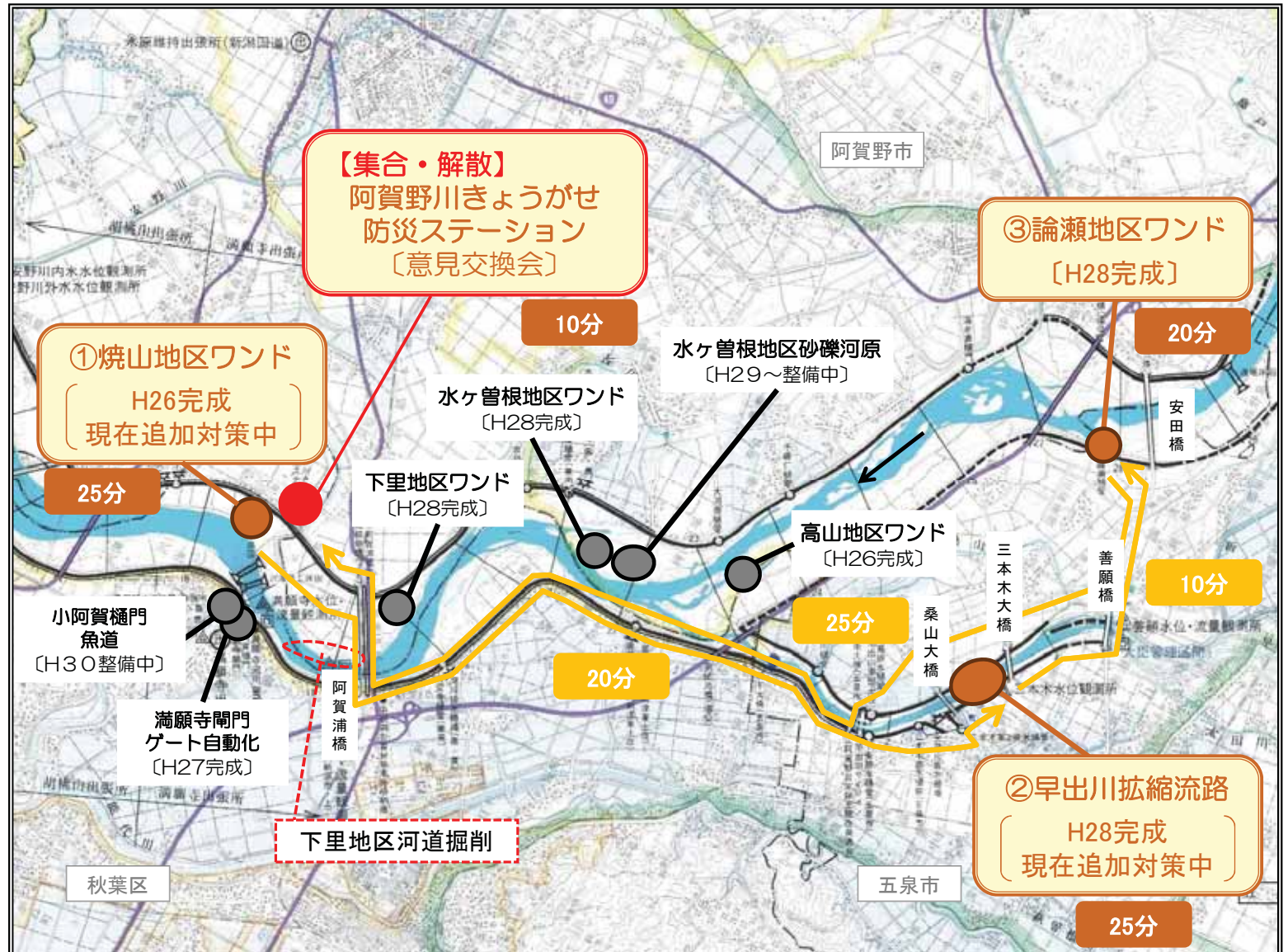


阿賀野川河川事務所

平成30年11月

見学行程

13:30 (約5分)	開会 (移動)
13:35 ~14:00 (約25分)	焼山地区ワンド 視察
(約20分)	(移動)
14:20 ~14:45 (約25分)	早出川 視察
(約10分)	(移動)
14:55 ~15:15 (約20分)	論瀨地区ワンド 視察
(約25分)	(移動)
15:40 (約10分)	防災ステーション 帰着
(休憩)	
15:50 ~16:00	意見交換会
16:00	閉会



現地見学ルート

焼山地区ワンド

〔平成26年度完成
現在追加対策中〕

2. 焼山地区ワンド



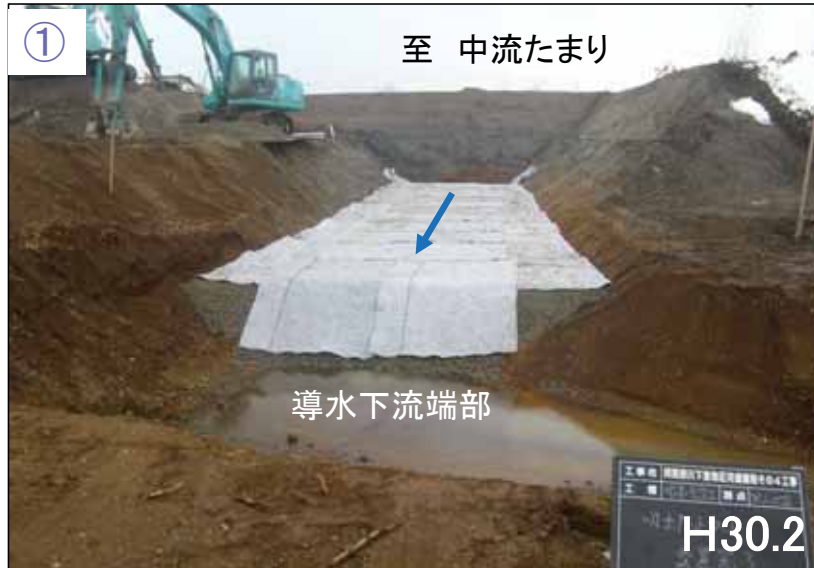
出典:国土地理院HP



下流部の拡幅



■ 締切堤付近の導水（平成29年度工事写真）



早出川拡縮流路

〔平成28年度完成
現在追加対策中〕

3. 早出川拡縮流路

第6回検討会
資料より

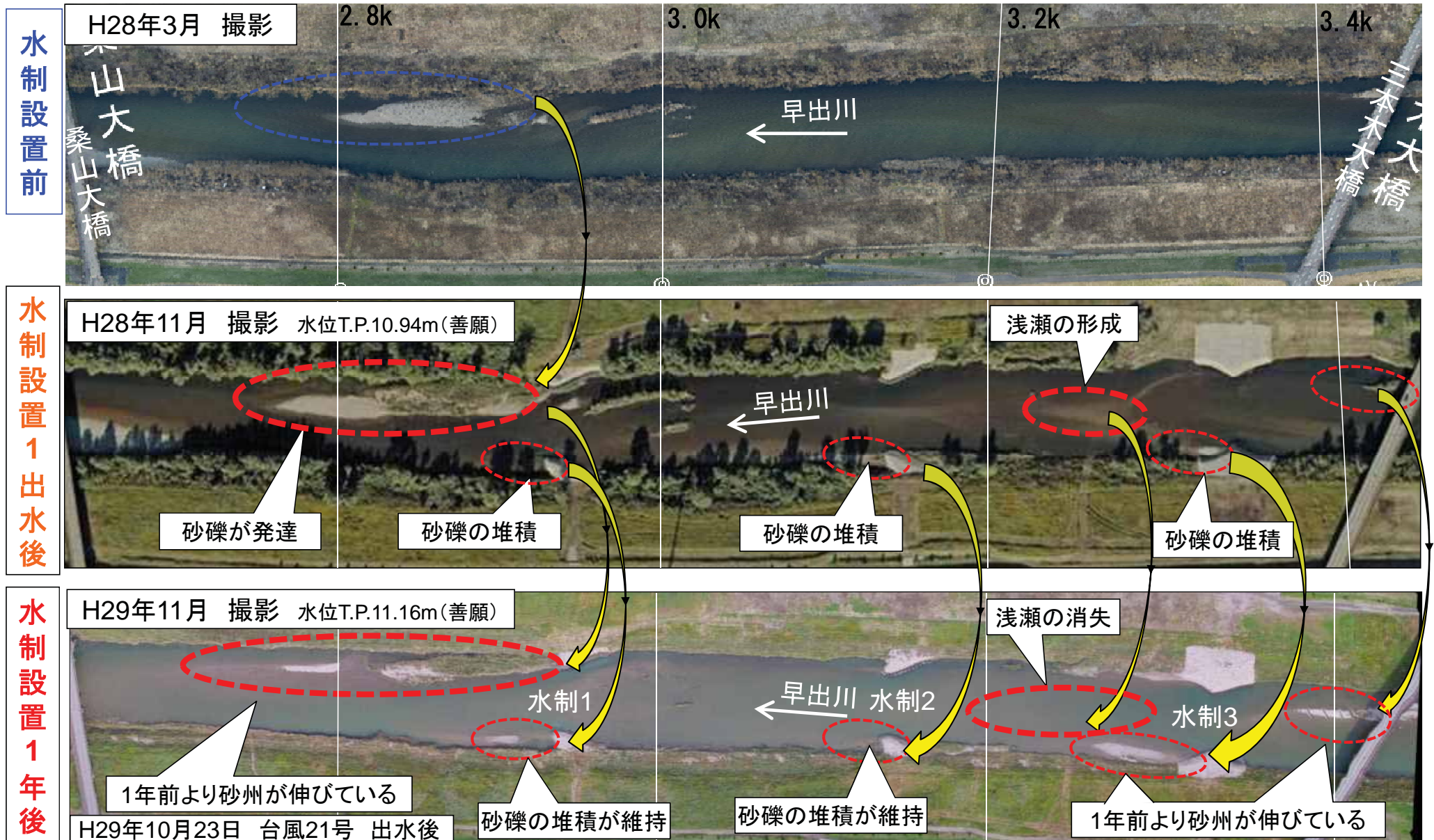
- 水制下流部の河岸に、土砂が堆積して緩流部が形成され、流心部には良好な瀬が形成されるなど、多様な流れからなる河川環境が再生。
- サケの産卵行動の報告もあるなど、河床環境も改善していることがうかがえる。



3. 早出川拡縮流路 河床の変化(1)

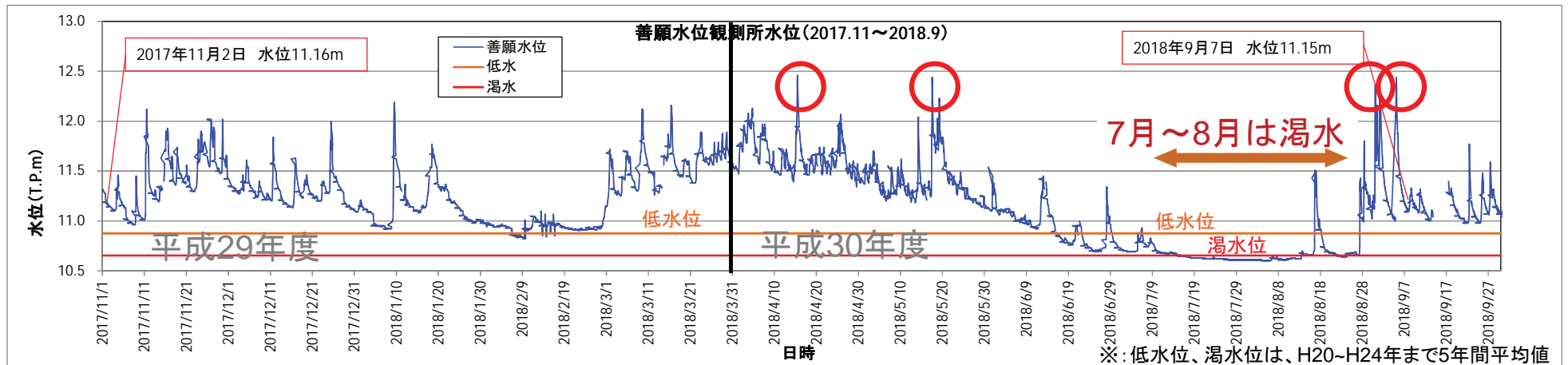
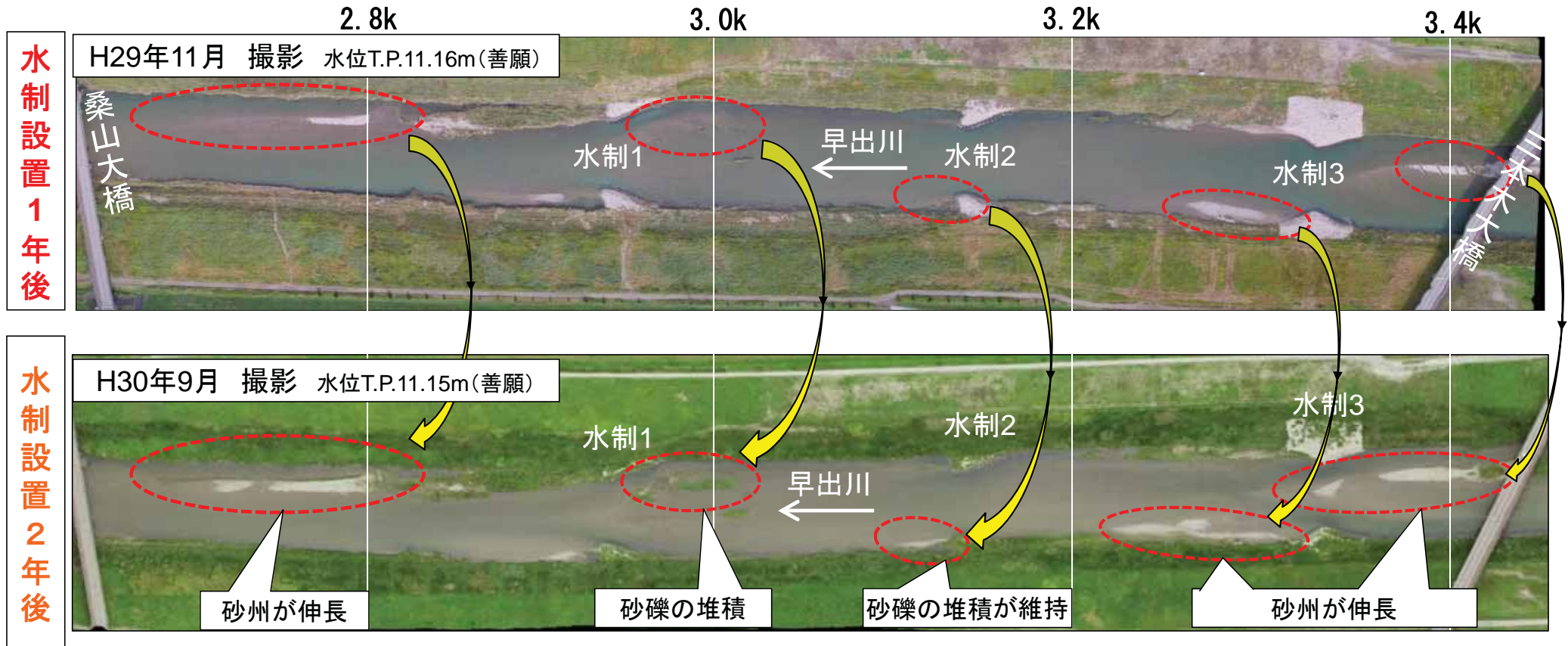
第6回検討会
資料より

- 水制の設置によって、浅瀬の形成・消失、砂礫の堆積など、河道内の土砂の変動を確認した。
- 共同研究での模型実験結果と同じく、水制下流側河岸への堆積が生じていた。



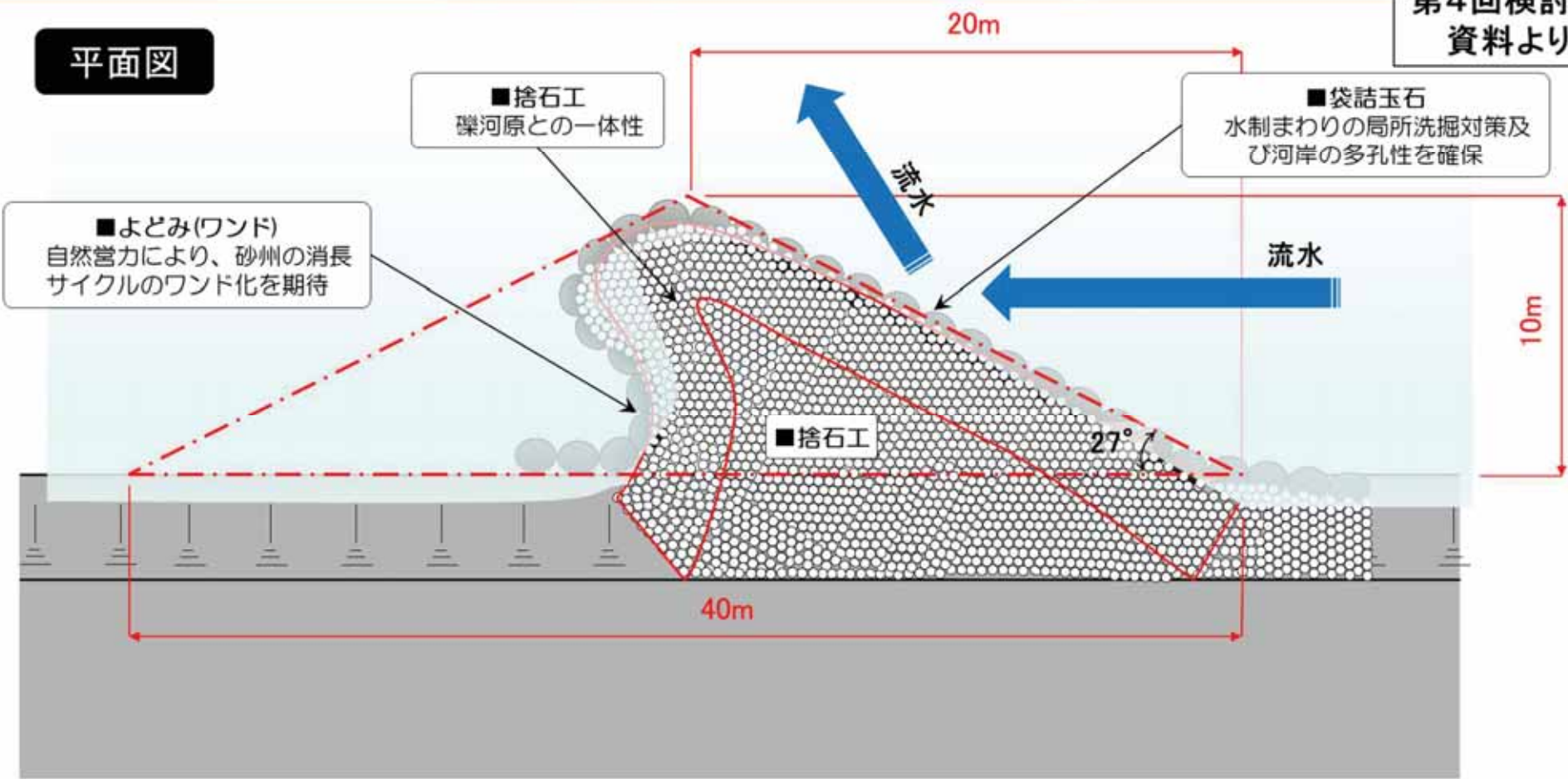
3. 早出川拡縮流路 河床の変化(2)

- ・昨年度に比べ、砂州の伸長や砂礫の堆積が見られる。
- ・出水は、中小規模が数回発生。 7月～8月は渇水で水位低下したことから、一部の砂州に植生が繁茂。

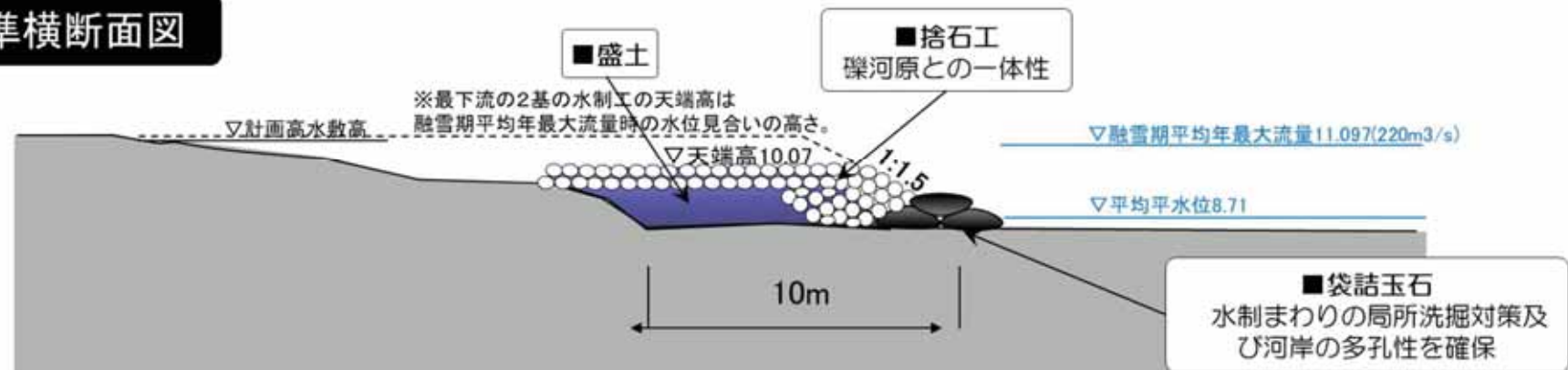


第4回検討会
資料より

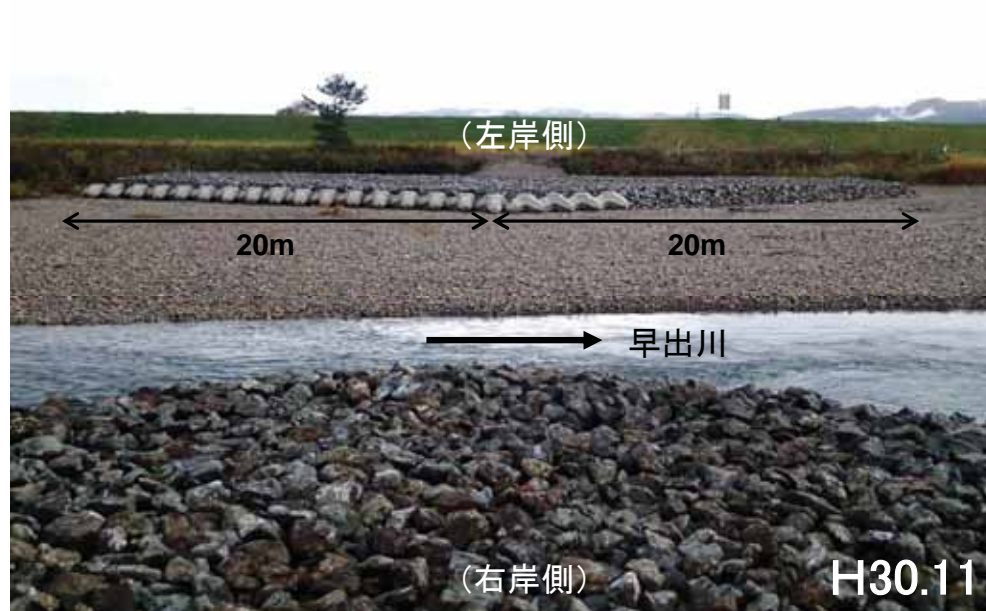
平面図

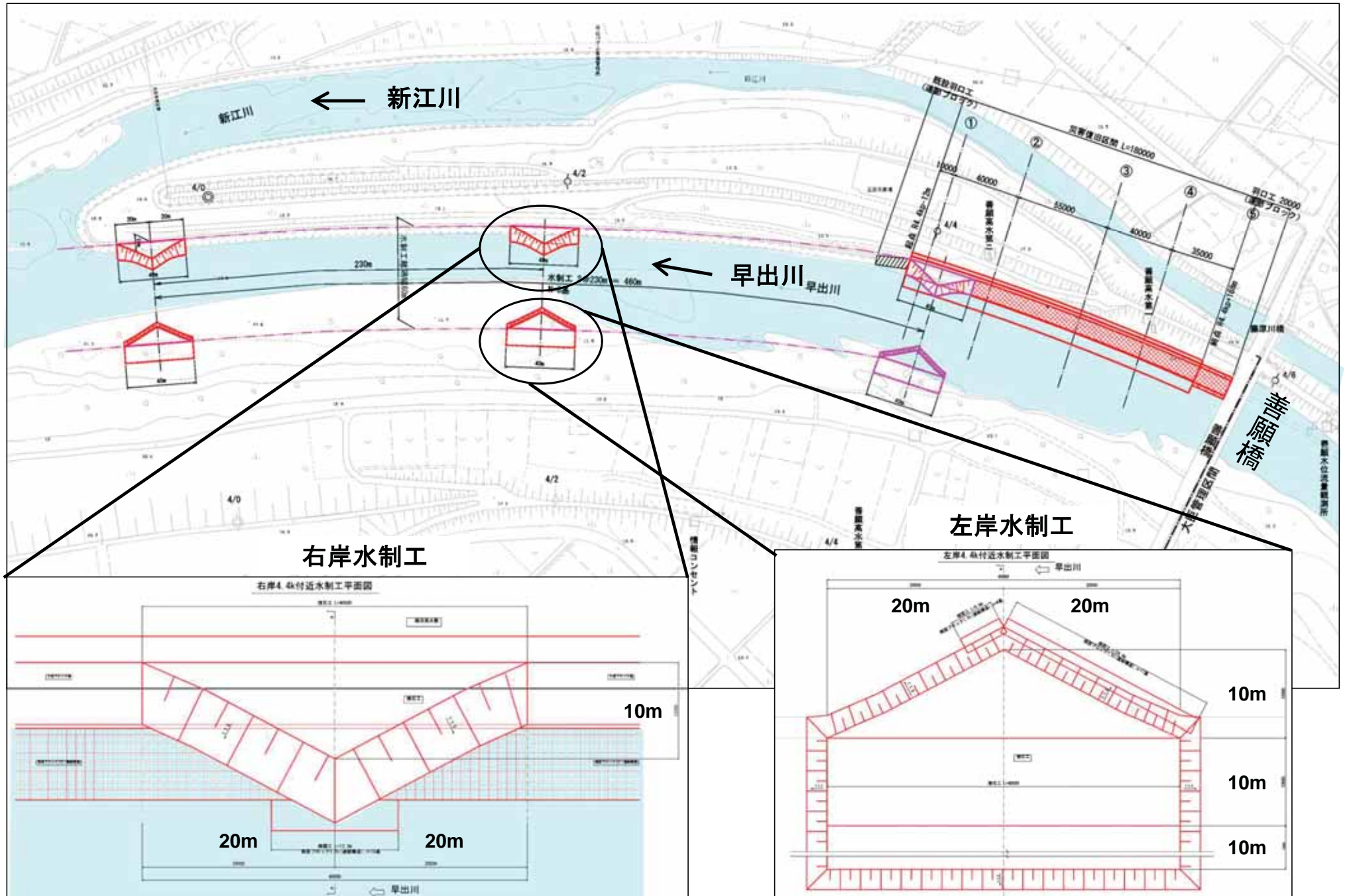


標準横断面図



※配置間隔・構造・形状については、今後のモニタリング等により変更となる可能性があります。

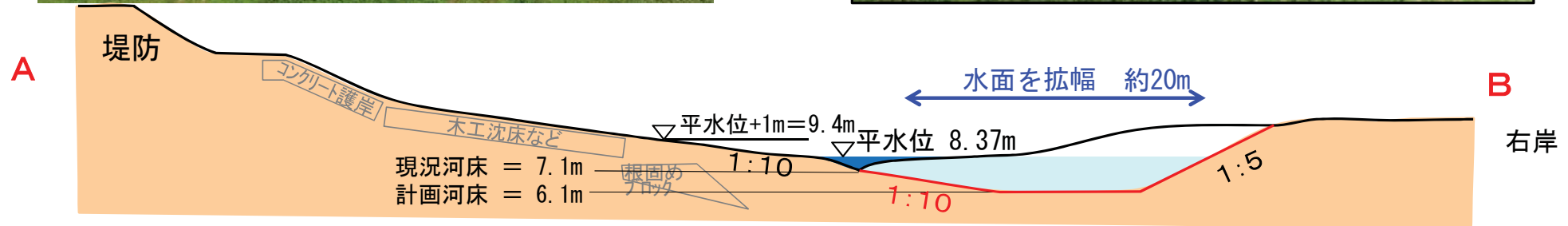




論瀨地区ワンド

〔平成28年度完成〕

4. 論瀬地区ワンド



平成30年度モニタリング結果速報

【ワンド等湿地の再生】

【早出川・流れの多様性の再生】

1. 植物調査結果速報(頻度法)

- ・秋季(H30/9/25-26)に、1測線あたり20コドラート(1m×1m)を配置した比高の異なる2測線で調査を実施した。
- ・施工から間もない下里、水ヶ曽根、高山ライン1では1～2年草の水辺湿地に生育する種が多い。

区分	生活型	生育地区分	種名	焼山地区		下里地区		水ヶ曽根地区		高山地区		論瀨地区		重要種選定カテゴリー			外来種			
				水際ライン	参考ライン	水際ライン	参考ライン	水際ライン	参考ライン	水際ライン1	水際ライン2	水際ライン	参考ライン	環境省	新潟県	新潟市				
出現頻度1位 (◎)	1～2年草	水辺・湿地	オオイヌタデ			◎		◎												
			オオクサキビ							◎	○								その他・国外	
			アメリカセンダングサ	○		○						○								その他・国外
			ヤナギタデ						○			○								
			トキンソウ								○	○								
			ヌカキビ									○								
	2位 (○)	多年草	耕作地・路傍	カヤツリグサ									◎							
				オオブタクサ						○				○						重点・国外
			草地	カナムグラ						◎										
				ツルマメ	○															
2位 (○)	多年草	水辺・湿地	ヨシ		◎															
			ツルアブラガヤ	◎												NT	NT			
		耕作地・路傍	セイタカアワダチソウ		◎		◎					◎							重点・国外	
			ヨモギ				○						◎	◎						
樹林地・林縁	アリタソウ										○							国外		
	ヘクソカズラ			○																
重要種	1～2年草	水辺・湿地	ホソバイヌタデ		●							●			NT	VU				
			ヌカボタデ										●			VU	VU	VU		
	タコノアシ		●		●										NT	VU	VU			
	ヤガミスゲ		●				●									NT	NT			
	ツルアブラガヤ		●		●								●			NT	NT			

重要種の選定根拠
 環境省:「環境省レッドリスト2018」(2018年、環境省)の掲載種
 VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧
 新潟県:「新潟県第2次レッドリスト」(2014年、新潟県)の掲載種
 VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧
 新潟市:「大切にしたい野生生物-新潟市レッドデータブック」(2010年、新潟市)の掲載種
 VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧

外来種の選定根拠
 特定:「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(2015年、環境省)の掲載種
 国外:元々当該水系には分布しておらず、国外から持ち込まれたもの
 生態系被害:「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(2015年、環境省)の掲載種
 重点:重点対策外来種、その他:その他の総合対策外来種

◻: 検討対象種



2. 魚類調査結果速報

- ・秋季(H30/9/25-28)にタモ網、サデ網、投網、セルビン、定置網を用いて調査を実施した。
- ・焼山・下里・水ヶ曾根はコイ科の遊泳魚が多く、高山・論瀨はやや少ない。早出川は礫河床を好む種が多い。

NO.	目名	科名	種名	生活型	タイプ	焼山	下里	水ヶ曾根	高山		論瀨	早出川	重要種選定カテゴリー			外来種		
						地区	地区	地区	地区	旧地区	地区	河川	環境省	新潟県	新潟市			
						ワンド	ワンド	ワンド	ワンド	ワンド	ワンド	河川						
1	コイ目	コイ科	コイ	淡水性	遊泳	●												
2			ゲンゴロウブナ	淡水性	遊泳	●								(EN) ^{※1}			国内	
3			ギンブナ	淡水性	遊泳	●	●	●		●		●						
4			タイリクバラタナゴ	淡水性	遊泳		●	●										国外・重点
5			オイカワ	淡水性	遊泳		●			●	●	●						
6			アブラハヤ	淡水性	遊泳	●	●	●		●	●	●					LP	
7			ウケクチウグイ	淡水性	遊泳			●							EN	VU	NT	
8			ウグイ	回遊性	遊泳	●	●	●	●	●	●	●						
9			モツゴ	淡水性	遊泳	●		●	●									その他※2
10			ビワヒガイ	淡水性	遊泳								●					国内
11			タモロコ	淡水性	遊泳	●	●	●					●					
12			カマツカ	淡水性	底生								●					
13			ツチフキ	淡水性	底生		●	●	●	●	●				(EN) ^{※1}			国内
14			ニゴイ	淡水性	底生	●	●	●	●	●	●	●	●					
15	ドジョウ科	ドジョウ科	ドジョウ	淡水性	底生							●	NT					
16			カラドジョウ	淡水性	底生		●										国外・その他	
17			ヒガシシマドジョウ	淡水性	底生								●					
18			フクドジョウ	淡水性	底生								●					国内
19	ナマズ目	ギギ科	ギギ	淡水性	底生							●				その他※3		
20		アカザ科	アカザ	淡水性	底生							●	VU	NT	NT			
21	サケ目	アユ科	アユ	回遊性	遊泳							●						
22	カサゴ目	カジカ科	カジカ	淡水性	底生							●	NT	NT	NT			
23	スズキ目	サンフィッシュ科	コクチバス	淡水性	遊泳			●				●				国外・特定・緊急		
24	ハゼ科	ハゼ科	ウキゴリ	回遊性	底生	●	●	●	●		●	●						
25			ジュズカケハゼ	淡水性	底生	●	●	●	●	●				NT	VU			
26			マハゼ	汽水性	底生	●												
27			旧トウヨシノボリ類	回遊性	底生			●						●				
28			ヌマチチブ	回遊性	底生	●								●				
計	5目8科28種			種数		12	11	13	6	7	5	19	5	4	4	9		

※1:ゲンゴロウブナ、ツチフキについては、国内移入種のため、重要種に計数しない。
 重要種の選定根拠
 環境省:「環境省レッドリスト2018」(2018年、環境省)の掲載種
 EN:絶滅危惧ⅠB類、VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧
 新潟県:「新潟県第2次レッドリスト淡水魚類・大型水生甲殻類編(2015)」(2015年、新潟県)の掲載種
 VU:絶滅危惧Ⅱ類、NT:準絶滅危惧
 新潟市:「大切にしたい野生生物-新潟市レッドデータブック」(2010年、新潟市)の掲載種
 NT:準絶滅危惧、LP:地域個体群
 外来種の選定根拠
 特定:「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(2015年、環境省)の掲載種
 生態系被害:「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(2015年、環境省)の掲載種
 緊急:緊急対策外来種、重点:重点対策外来種、その他:その他の総合対策外来種
 ※2:「東北地方などのモツゴ」が対象。※3:「九州北西部及び東海・北陸地方以東のギギ」が対象
 国内:元々当該水系には分布しておらず、国内の別の生息地から持ち込まれたもの
 国外:元々当該水系には分布しておらず、国外から持ち込まれたもの

☐:検討対象種



ウケクチウグイ



カジカ